

阿部 思水（あべ・しすい）

1、プロフィール

俳人。「蕪の花」「北地」を発行し八戸俳壇の再興を図る。「すすき野」「青年俳句」「北地」の三誌をまとめ「北鈴」を発行、多くの俳人を育てた。

<生没>

1908(明治 41)年 11 月 4 日 ~ 1970(昭和 45)年 2 月 12 日

<代表作>

句集『日筋』『微塵』『定本阿部思水句集』

<青森との関わり>

八戸市に生まれる。八戸俳句会を創立し、初代会長として八戸俳壇興隆のため活動した。

2、作家解説

本名阿部達三。明治 41 年八戸町番町に生まれる。昭和4年青森師範学校二部卒業、赴任先の鮫小学校で「浜の家吟社」に参加、俳句を始める。水野六山人主宰の「ぬかご」誌友となり、以後「石楠」「寒潮」「はまなす」に参加し、活動を続けた。昭和 23 年「濱」の大野林火に師事する。この年戦前戦中の作品を集めた第一句集『日筋』を上梓した。26 年「寒潮」「はまなす」の併合とともに八戸俳句研究会を作る。「蕪の花」のちに「北地」の発行編集責任者となり、村上しゅら、上村忠郎らとともに八戸俳壇の再興を図る。32 年「あのなっす・そさえて」孔版工房より第二句集『微塵』を上梓した。「淋漓」「静臥」の二部で妻の死、3年間の闘病を詠んだ二百句が収められている。

33 年には加藤憲曠の「すすき野」、上村忠郎の「青年俳句」、阿部思水の「北地」の三結社を発展的に解消し、八戸俳句会を創立した。思水は初代会長として八戸俳壇興隆の先に立ち、県南のみならず青森県俳壇の発展向上のために力を尽くした。隔月の機関誌「北鈴」は 58 年まで 25 年間 131 号まで続いた。44 年階

上村立道仏中学校長を定年退職、教育者としても多くの人材を輩出した。郷土の風物、生活に根ざした俳句の創作だけでなく、作家論や風土俳句論などの評論も数多く発表している。

3、資料紹介

○『定本阿部思水句集』

図書

1995(平成7)年 12 月 29 日

155mm × 220mm

生前に発行した2つの句集と、未発表の作品の三部からなる。第一部「日筋」(昭和5～21)は四季別の百句。第二部「微塵」(昭和 23～29)は年代順に配列した二百句。第三部「荒磯」は 30 年以降の作品。序文加藤憲曠、跋文木附沢麦青、略年譜。本文 276 ページ。